

## パブリックコメント意見募集の結果公表

(仮称) 帯広市ゼロカーボン推進計画(原案)に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられたご意見等について検討した結果、(仮称) 帯広市ゼロカーボン推進計画(原案)の修正は行わず、原案どおりとして策定することとしました。

### 【意見募集結果】

案 件 名	(仮称) 帯広市ゼロカーボン推進計画(原案)		
募 集 期 間	令和5年11月27日(月)～令和5年12月26日(火)		
意 見 の 件 数 (意見提出者数)	27件(8人)		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	1件
	参考	今後の参考とするもの	10件
	その他	意見として伺ったもの	16件
意 見 の 受 け 取 り	持参		2人
	郵送		人
	ファクス		2人
	電子メール		4人

### 【意見等の内容】

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
1	対象とする温室効果ガスを二酸化炭素のみとしているが、地球温暖化対策推進法ではメタンや一酸化二窒素など7種類が挙げられており、国や北海道の計画でも7種類を対象としている。二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出係数は高いことから、二酸化炭素以外の温室効果ガスも対象とすべきではないか。仮に、現段階では対応困難という場合、理由や今後の方針を明確にすることが適切と考える。	1	<p>【その他】</p> <p>本計画では、市民、事業者等、市それぞれが主体性を持ちながら、一体となって取り組みを進めるため、できるだけ分かりやすく伝えていきたいと考えています。二酸化炭素以外の温室効果ガスについては、二酸化炭素よりも温室効果が高いものの、国内の温室効果ガス排出量に占める割合は1割程度であり、市民や事業者等にはどのように削減して良いのかイメージしづらいため、二酸化炭素のみを対象にしています。</p> <p>なお、本計画を推進していく中で、技術革新の動向等を注視しながら、適宜、二酸化炭素以外の削減対策の必要性について検討してまいります。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
2	<p>フードバレーとかちと連動してイメージすることが必要ではないか。フードバレーとかちの施策展開(戦略プラン)を見ると、方向性や推進方法について親和性が高いことが分かる。既存のプラットフォームを適宜活かすことで、効率性や実効性がさらに高まると思う。</p>	1	<p><b>【参考】</b>  脱炭素化は、生活や産業といった社会経済活動のあらゆる分野にまたがるため、フードバレーとかちをはじめとした様々な市の取り組みと調和を図る必要があると考えています。  いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>まちづくり施策と連携させるべきではないか。  「ウォークブル」「まちやど」「ほこみち」「既存建物の再生」は本計画と親和性が高い。まちづくりに重要なのは「わくわく感」。方向感を打ち出し、まずは小さく始めてトライ&amp;エラーを重ねながら、パブリックマインドある民間人と公共が連携して進めるのが理想と考える。</p>	1	
4	<p>事業者と子供たちを巻き込んでどうか。  事業者に対してはインセンティブを与えることで即効性を期待し、子供たちにはゼロカーボンを日常化させることで、親をはじめ周囲を巻き込んでもらう将来性に期待できる。</p>	1	<p><b>【既記載】</b>  本計画では、事業所等への再エネ・省エネ機器の導入を進めるため、市は国や北海道による様々な助成制度の周知などを図るとともに、これらの制度とのバランスを考えながら、市の効果的な補助制度などについて検討していく考えです。  また、一人ひとりの行動変容を図るには、環境教育の取り組みが非常に重要と考えており、子どもたちに対しても、出前環境教室や学校等における環境教育の実施などを進めてまいります。</p>
5	<p>(仮称)帯広市ゼロカーボン推進計画には、具体的なことがあまり示されておらず、住民にただお願いして削減目標を示しても実現できるとは思えない。もっと具体的な提案をしてほしい。</p>	1	<p><b>【その他】</b>  本計画では、温室効果ガス排出量の削減目標の達成に向け、必要となる取り組みについて、市民、事業者等、市に分けて網羅的に記載しています。より具体的な内容については、来年度以降実施する各事務事業の中で明らかにするほか、計画に記載している「ご家庭でできる省エネの取り組み」のように、市民の皆さんが具体的に何をしたら良いのかを分かりやすくお伝えできるような周知や広報に取り組んでまいります。  また、脱炭素をめぐる状況は今後も変化をしていくことが想定されるため、本計画の中で技術的な難易度や費用対効果などを一律に示すことは困難ですが、毎年度、進捗についての分析・評価を行いながら、柔軟に本計画に基づく取り組みを進めてまいります。</p>
6	<p>各取り組みについて、全体的に導入、推進、活用といった言葉が並んでいるが、年次的に具体的な取り組みが見えないので本当に実現できるのか疑問である。</p>	1	
7	<p>各種施策が列挙されているが、技術的な難易度や費用対効果が示されておらず、どの施策を優先すべきかが不明確。年度ごとの限られた予算で何を優先すべきか明確になるよう、難易度や費用対効果の情報を追記すべきではないか。</p>	1	

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
8	クーラー使用を減らすため、公営住宅への網戸の設置を記載してはどうか。	1	<p>【参考】</p> <p>本計画では、住宅や建築物の断熱性能の向上や省エネ設備・機器の導入など省エネルギー対策を進めていくこととしており、市有施設においてもこれらに取り組んでいく考えです。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
9	<p>地球温暖化対策は、市民が取り組むのももちろん、行政が真剣に取り組んでほしい。</p> <p>補助金について、蓄電池は太陽光発電システムとの併設時しか受けられない仕組みではなく、利用しやすい仕組みとしなければ、個人では十勝の太陽の恵みを活用することにも限界がある。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>太陽光発電システムなど再エネ・省エネ機器等の導入促進にあたっては、国や北海道などの様々な支援制度の周知を図るとともに、これらの制度とのバランスも考えながら、効果的な市の補助制度などについて検討していく考えです。</p>
10	家庭用太陽光パネルやペレットストーブを初期費用面で導入しやすくしてはどうか。	1	<p>【その他】</p> <p>帯広市では、太陽光発電システムや木質ペレットストーブ等新エネルギー機器等をご家庭に導入される方に対して補助を実施しています。</p> <p>なお、再エネ・省エネ機器等の導入促進にあたっては、国や北海道などの様々な支援制度の周知を図るとともに、これらの制度とのバランスも考えながら、効果的な市の補助制度などについて検討していく考えです。</p>
11	<p>太陽光発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーで製造した水素を、貯蔵・輸送することで再生可能エネルギー及び水素エネルギーの利活用の幅が大いに広がると思う。帯広市の特徴である長い日照時間を利活用した太陽光発電、酪農業の問題解決となるバイオマス発電、水素エネルギーの特徴である「貯蔵」ができることを総合的に考慮し循環型エネルギー利用の仕組み構築を、市が率先して取り組んでほしい。</p>	1	<p>【参考】</p> <p>本計画では、本市の地域特性である長い日照時間や豊富なバイオマスなどを活用し、太陽光発電やバイオマスの活用、雪氷エネルギーや水素エネルギーなどの活用の検討を進めることなどにより、エネルギーの安定確保に努めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
12	<p>帯広は再生可能エネルギーが豊かである。太陽光発電に絞っても電気消費量の1,200%の余力があると聞いている。また、2018年の胆振東部地震や2019年の台風による広域停電の際は発電送電システムに不安を覚えた。自然エネルギーの活用と地方分散型に舵を切るマイクログリッドの取り組みを帯広でも実現させてほしい。</p>	1	<p>【参考】</p> <p>本計画では、本市の地域特性である長い日照時間や豊富なバイオマスなどを活用し、エネルギーを太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーへの転換を進めるほか、自立・分散型エネルギーシステムの調査・研究を行うこととしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
13	<p>幅広に捉えて全方位に対応できる可能性を残すことは大切だが、特徴的・象徴的な施策を前面に押し出しメリハリをつけるべきではないか。例えば、</p> <p>① 川西地域、大空地区、旧少年院地域(活用方法を検討中と聞いている)などを軸としたマイクログリッドの推進</p> <p>② マイクロ水力発電の積極推進(コストのかからない場所貸しスキームの活用)と、国交省が進める「かわまちづくり」の考え方を活かし、かつ、釣りの聖地である札内川流域を「再エネ・交流・教育・観光」のメッカと位置付けた包括的な取り組み</p> <p>③ ウォーカブルな街なか再生を目指すとともに、人々の行動変容につながるような公共交通機関の利便性の追求と実現</p>	1	<p><b>【参考】</b></p> <p>本計画では、本市の地域特性である長い日照時間や豊富なバイオマスなどを活用し、エネルギーを太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーに転換するほか、自立・分散型エネルギーシステムの調査・研究を行うこととしています。</p> <p>また、運輸部門における温室効果ガス排出量の削減を図るため、公共交通の利用促進など脱炭素化と一体となったまちづくりを進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
14	<p>進捗評価項目「新規新車登録台数に占める次世代自動車の割合」について、台数でなく割合で示している理由は何か。「日本再興戦略(平成 25 年 6 月閣議決定)」の 2030 年までに実現すべき成果指標として、「新車販売に占める次世代自動車の割合を 5～7 割」とあるが、これに倣っているとしたら少し古いと思う。</p>	1	<p><b>【その他】</b></p> <p>国の地球温暖化対策計画では「新車販売台数に占める次世代自動車の割合」を対策評価指標として設定しており、今後、本市の取り組みの進捗状況を評価する上で有効な項目と考えています。</p>
15	<p>次世代自動車には、EV、PHEV、FCV など種類ごとに特徴があることから、種類ごとの特徴にあった施策を練り、市が率先して取り組んでほしい。</p>	1	<p><b>【参考】</b></p> <p>本計画では、自動車移動における脱炭素化に向けて、次世代自動車の導入を促進していく考えであり、EV、PHEV、FCV などそれぞれの次世代自動車の特徴などについて市民に周知するとともに、公用車においては、その特徴なども踏まえながら導入を図っていきたくと考えています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
16	<p>新聞に EV・水素車の導入に 4 割の企業が前向きという記事が出ていたので、このアンケート調査のデータを参考にし、充電・充填設備の設置場所の斡旋、カーシェアリング等のサービスの模索などさらに多くの企業が前向きになるような施策を実行してほしい。</p>	1	<p><b>【参考】</b></p> <p>本計画では、自動車移動における脱炭素化に向けて、次世代自動車の導入を促進していくこととしており、電気自動車等の充電設備などのインフラ整備についても促進していく考えです。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
17	公共交通網の充実を記載してはどうか。	1	<p>【参考】</p> <p>本計画は、運輸部門における温室効果ガス排出量の削減を図るため、公共交通の利用促進など脱炭素化と一体となったまちづくりを進めることとしており、公共交通の運行効率化を促進する考えです。</p> <p>なお、本計画においては具体的な記載はありませんが、関連計画である帯広市地域公共交通計画では、持続可能な公共交通サービスの確保のため、利便性と効率性の高いバス路線網に加え、効率的な運行形態や、路線バス、タクシー、鉄道の交通モード間の連携可能性について検討することとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
18	<p>新しくりりんセンターには、十勝中の焼却ごみが搬送されることになっているため、ごみを運搬してくる収集車が帯広に集まる。当然、排ガスも増えるので、排ガスを発生しない次世代自動車の導入を各自治体に求めてほしい。できれば運搬距離が長くならないよう、十勝に分散して焼却施設を設けることが望ましいと思う。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>新たな中間処理施設の整備については、十勝圏複合事務組合が構成市町村と検討のうえ、令和10年度からの稼働に向けて、計画的に取り組みが進められています。</p> <p>いただいたご意見は、当該事業を実施している十勝圏複合事務組合にお伝えいたします。</p>
19	「新しくりりん」の計画では、十勝中からゴミの長距離運搬を予定しているが、脱炭素に逆行するのではないか。	1	
20	現在進められている新しくりりんセンターの建設は、現在の建物全てを建て替える点で省エネではないと思う。管理棟はまだ使えるので生かせると思う。	1	<p>【その他】</p> <p>新たな中間処理施設の整備については、十勝圏複合事務組合が構成市町村と検討のうえ、令和10年度からの稼働に向けて、計画的に取り組みが進められています。</p> <p>いただいたご意見は、当該事業を実施している十勝圏複合事務組合にお伝えいたします。</p>
21	新しくりりんの見直しもゼロカーボンに必要と思う。	1	<p>【その他】</p> <p>新たな新中間処理施設においては、資源化率の向上や環境教育の充実のほか、処理に伴い生じる熱を効率的に回収することにより、エネルギーの有効活用を図り、二酸化炭素の削減や地球温暖化の防止に努めるとされています。</p>

No	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
22	生ごみや草木はバイオマス発電等に活用し、燃やす量が減れば、現在建設が進められている新くりりんセンターにおける焼却炉の規模を小さくできると思う。	1	<p>【その他】</p> <p>新たな中間処理施設の整備については、十勝圏複合事務組合が構成市町村と検討のうえ、令和10年度からの稼働に向けて、計画的に取り組みが進められています。</p> <p>帯広市としては、本計画に記載している3Rの推進や、関連計画である帯広市一般廃棄物処理基本計画に基づき、市内からのごみ排出量を削減する取り組みを進めていく考えです。</p>
23	くりりんセンターの建て替えの問題で、少しでもごみを減らしていく活動を考えたとき、今計画しているセンターは大き過ぎるのではないかと思う。	1	
24	現在「中間処理施設整備計画」が進行中であるが、ゼロカーボンに向かう自治体としてこれから何年もごみを燃やし続ける大型施設を作ることに違和感を覚える。ごみはその大半が資源化できると聞いており、富良野方面では約90%の資源化に成功している。ごみの細かい仕分けが必要だが、温暖化を止めるためなら多少混乱はあると思うが帯広市民は協力を惜しまないと思う。CO2を排出する施設にお金をかけるよりもリサイクル施設を充実させる方が遥かに目標実現に資すると思うので、具体化してほしい。	1	
25	燃やすごみのうち、生ごみ、庭の草・花・樹木の葉等については、ごみ袋の色を別にして資源化すると減量につながると思う。	1	<p>【参考】</p> <p>帯広市では、公共事業から発生する剪定枝とともに、家庭から出る剪定枝についても年2回、指定場所での受け入れを行い、資源として活用しています。</p> <p>こうした取り組み以外に、生ごみや草木などを資源として活用するには、ごみの分別ルールや収集運搬体制の変更、堆肥化するのであれば施設の整備が必要であり、市民負担の観点からも慎重な検討が必要であると考えています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
26	パブリックコメントの意見等募集期間が短過ぎる。	2	<p>【その他】</p> <p>意見募集期間については、市民が本計画への意見等を提出するために必要な期間を考慮のうえ決定しており、今回は、募集期間を30日間と定めて実施いたしました。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり